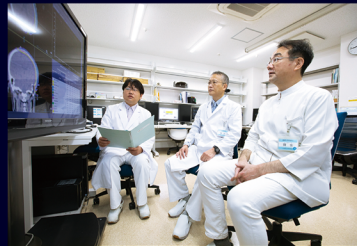




放射線治療専用のCT画像を元に、どのくらいの量の放射線をどのくらいの時間、どんな角度で照射するかといった治療計画を検討する医師たち。



放射線科(治療)の医師が全員揃って毎朝実施しているカンファレンスでは、患者の情報を共有するとともに、治療内容の確認を行なっている。

## Radiation Oncology



勝井 邦彰 教授  
Katsui Kuniaki

■ 専門医  
日本専門医機構認定放射線科専門医

休みの日は、音楽ストリーミングサービスではやりの曲を聞きながら自宅近くの公園を散歩したり、クラシックを流しながら文章を書くことが多いですね。



昨年6月に導入した高精度放射線治療装置。360度すべての方向を使って、広い範囲に強度変調放射線治療を行なうことができる。より確実にピンポイントの治療を提供することが可能であるため、副作用を減らす効果が期待できる。



今年6月から稼働している高精度放射線治療装置。一回の治療を短時間で終わらせたい時にも力を発揮する。

## 医療最前線

»» vol.87

川崎医科大学附属病院  
放射線科(治療)

Report!

# 2種の新たな放射線治療装置導入で、体への負担が少ない治療を目指す。

特長の異なる装置を使い分け、一人ひとりにあった治療を。

川崎医科大学附属病院放射線科(治療)では、脳腫瘍や肺がん、乳がん、前立腺がん、悪性リンパ腫をはじめとする多種多様な腫瘍を治療し根治を目指す照射を中心に、がんによる症状を和らげる緩和照射、延命を目的とする姑息照射を行なっている。たとえば、一九八七年に開始した乳がん摘出手術後の乳房温存療法では、二〇〇三年に寡分割照射を開始。一回の治療で照射する放射線量を多くすることで治療回数を減らすこの方法では、より短期間で従来の治療法と同等の治療効果が期待できる。これまでに二〇〇人以上がこの治療を受けている当院は、国内における先行施設のひとつに数えられている。

さらに、進化し続ける放射線治療に対応すべく、この一年ほどの間に新たな放射線治療装置を二台導入。「昨年は一回で最大二三五センチの範囲を治療できる装置、今年は最大四〇センチの範囲の中でたくさん放射線を短時間のうちに照射できる装置を入れました」と勝井教授は話す。どちらも、がん病巣に高い線量を投与して効果を高めるとともに、健康な部分への放射線量を抑える強度変調放射線治療を可能にした高精度装置。特に前者は、中国地方の医療機関や大学病院で初の導入となっている。この装置では、例えば肺がんなような呼吸で位置が変わる腫瘍に

対しても、腫瘍を追いかけながら動く位置を予測して集中的に放射線をあてること(追尾照射)ができるのも大きな特長。それにより、照射中に息を止めておくことが難しい患者にも、患部に的確な照射治療が可能となった。

「この機器での追尾照射は中・四国の医療機関で初めて行ないました。特長の異なる機械が二台あることで、提供できる放射線治療の手法が広がり治療の選択肢が増えました。それぞれの特長を生かして使い分けることで、今まで以上に幅広い患者さんに向けて、それぞれに適した治療を提供できると考えています」とも。

そんな勝井教授が今後の課題としているのが、放射線によるがん治療に携わる後続医師の育成だ。「当科には、高精度放射線治療を行なえる若い医師が複数います。しかし、全国的に見ると放射線治療を担う医師は、圧倒的に不足しています。数多くの医師を育成することは、使命のひとつだと思っています」。そう話す勝井教授は、論文や本を読んで知識を深めるなど自己研鑽にも余念がない。そして「ひとりでも多くの方に、少しでも高いレベルの放射線治療を受けてほしい」と願いつつ、今日も個々に最適なと思われる治療を提供している。

お問合せ  
川崎医科大学附属病院  
倉敷市松島577  
☎086462-1111  
<https://h.kawasaki-m.ac.jp>